

静岡茶の世界を考える懇話会：国際シンポジウムと資料展示

世界をつなぐ静岡茶

Shizuoka tea that connects the world

静岡県立大学グローバル地域センターは、静岡県やお茶にゆかりのある有識者の御協力により平成30年2月から「静岡茶の世界を考える懇話会」を開催しています。懇話会では、お茶をめぐる社会経済・歴史文化など様々な話題について自由に討論や意見交換を行っており、さらに静岡の茶業史に係る貴重な資料のアーカイブ化を進めています。今回、懇話会の場合を「世界お茶まつり2019」に移し、海外から2人の気鋭の研究者を招いて国際シンポジウムを開催します。会員の研究成果や資料等の展示を一体的に実施し、多くの皆様とともに静岡茶の世界と未来を考えてまいりたいと思います。

開催日時

令和元年 **11月7日 木**
13:00～16:30 (12:30 開場)

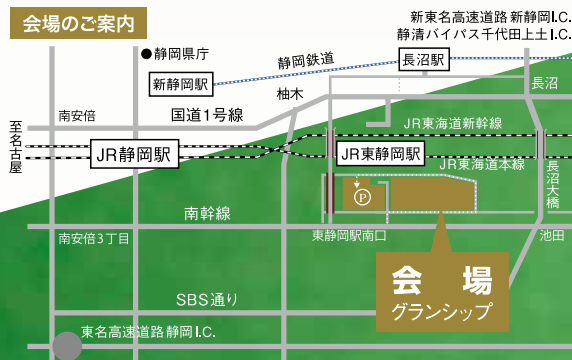
参加
無料

要・事前申込
定員150名

会場

静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ 10階
1001会議室

会場のご案内



アクセス

JRご利用の場合…静岡駅南口から車で15分または東静岡駅から徒歩5分
静岡鉄道ご利用の場合…長沼駅から徒歩12分

主催・お問い合わせ

静岡県立大学グローバル地域センター

TEL: 054-245-5600 FAX: 054-245-5603

https://www.global-center.jp E-mail: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

後援

静岡県、静岡市、公益財団法人世界緑茶協会、公益社団法人静岡県茶業会議所
フェルケル博物館

国際シンポジウム

(敬称略、休憩あり、逐次通訳)

開会あいさつ・趣旨説明

静岡県立大学グローバル地域センター センター長 濱下 武志

基調講演

「1920年代から1960年代における
北アフリカ方面の茶市場成長と日本の参入の試み」

ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院教授

ウィリアムG.クラレンス=スミス

講演1

「静岡茶の輸出と清水港の歩み」

静岡県立大学グローバル地域センター特任助教 栗倉 大輔

講演2

「日本緑茶とアメリカンサンドイッチ：
1920-30年代のアメリカ市場における神宮栄蔵の活動」

ウエイク・フォレスト大学歴史学科准教授 ロバート・ヘリヤー

講演3

「お茶をどうぞ：現代中国の
文化ルネサンスが生む広域経済活動」

一橋大学大学院社会学研究科教授 足羽 與志子

パネルディスカッション

資料展示

(11/7 11:30～16:30 10階1001会議室)

会員の研究成果やお店に伝わる帳簿(判取り帳)等の資料展示

協賛展示

(11/7～10 10:00～16:00 6階展示ギャラリー3)

『茶のある空間のしつらえ』東アジア文化と茶のルネサンス

・中国の文人茶(浅喜 CASACHY)

・日本の民芸の茶

(花森家具・三保原屋)

・パネル解説：東アジアのお茶とは

(静岡県立大学茶学

総合研究センター長 中村 順行)



国際シンポジウム登壇者プロフィール



ウィリアム・ジェルヴァース・クラレンス＝スミス

●英国ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院教授

ケンブリッジ大学大学院修士号取得、ロンドン大学大学院博士号取得。茶、コーヒー、ココア、チョコレート等経済商品の歴史並びにアフリカや東南アジアにおける宗教、奴隷制、ジェンダーの歴史研究に幅広く取り組んでいる。



ロバート・ヘリヤー

●米国ウエイク・フォレスト大学歴史学科准教授

スタンフォード大学大学院博士号取得。アレゲニー大学助教授、ライシャワー日本研究所、ハーバード大学博士研究員を経て現職。1850年代から1950年代にかけての、おもにアメリカに向けた日本茶輸出について研究を行っている。

足羽 與志子

●一橋大学大学院社会学研究科教授

静岡市出身。文化人類学。博士(社会学)。ハーバード大学、コロンビア大学等で客員研究員、国立新美術館評議員等を歴任。アジアを中心に文化、宗教、芸術、政策、平和等、価値生成についての幅広い研究を行う。

濱下 武志

●静岡県立大学グローバル地域センター センター長
東京大学名誉教授

静岡市出身。東京大学東洋文化研究所長・教授、中山大学(中国)アジア太平洋学院院長等を歴任して2017年から現職。中国社会経済史、東アジア経済史、東アジア華僑華人史などの歴史学を専攻。

栗倉 大輔

●静岡県立大学グローバル地域センター特任助教

静岡市(清水区)出身。博士(経済学)。専攻は日本経済史、日本産業史で、特に近代日本の茶業史および茶貿易史の研究を進めている。著書に『日本茶の近代史』(蒼天社出版、2017年)。

資料展示

「日本茶業・茶貿易の160年―展示全体をめぐる歴史的背景―」(栗倉大輔)

静岡市茶町界隈でのお茶取引や流通の様子(加納昌彦)

静岡県の茶業者が、台湾緑茶の輸入を真剣に考えていた頃(加納昌彦)

万国博覧会と日本茶～パリ・アメリカで展開された日本茶喫茶店～(吉野亜湖・井戸幸一・小二田誠二)

戯作から読む江戸時代の喫茶文化～大疑問：急須はいつからあったのか?～
(吉野亜湖・石部健太郎・小二田誠二)

蘭字研究の最前線(井手暢子・吉野亜湖・小二田誠二)

「英国系茶貿易会社グループの近代東アジアにおける動向の解明に向けて―ハリソンズ&クロスフィールド社文書(ロンドン市文書館所蔵)について―」(戸部 健)

「茶業史研究の取り組みと歴史的資料の活用」(栗倉大輔)

「意外と知らない?戦前期の静岡茶の歴史」(栗倉大輔)

「日本における茶磨の受容」(沢村信一)

「茶の飲まれ方の変化(簡便性緑茶の変遷とリサイクル)」(笹目正巳)

協賛展示「茶のある空間のしつらえ」東アジア文化と茶のルネサンス

「浅喜 CASACHY」

2013年、陳新が創立。中国宋代の美学を継承し、文人趣向の生活空間を現代に提案。家具、器などの企画、製造販売。「浅喜」とは、<ささやかな喜び>という意味。浅喜の品を末永くご愛用いただきたいという思いが込められている。無垢材を使用し、中国伝統の家具製法を取り入れる。中国のみならず、日本でも静かな人気を博し、近々、六本木に専用ギャラリーを開設予定。

「花森家具」

静岡の代々の家具職人。民芸運動の柳宗悦の薫陶を受けた、松本民芸家具の創始者、池田三四郎の知遇を得て、1960年代に松本民芸家具の販売店として展開。静岡、東京等に4店舗。砥部や小鹿田焼等の日常雑器や、静岡の職人や作家の作品、海外の品も誂え、シンプルで本物の美のある暮らし方を示す。子や孫に伝える正直な手仕事の品をと花森崇行。目利きの一点一点が行む。

「三保原屋」

静岡で代々荒物問屋を営む。創業は江戸初期。戦後、人々の生活変化に合わせた新商品を扱い成長。静岡、焼津に3店舗。常にアンテナを張り、便利で使いやすく、遊び心や実用美を併せ持つ日用品を幅広く揃える。世代をつうじて日常を楽しむライフスタイルを支援。選び抜かれた品揃えは老舗の気概と次世代の後継者の感覚が光る。花森家具との初のコラボレーション。



国際シンポジウム 世界をつなぐ静岡茶 (11月7日)

参加申込書

下記の申込書に必要事項をご記入の上、11月1日(金)までにFAXまたは郵送にてお送りください。
ホームページからもお申込みいただけます。なお、定員となり次第、締め切ります。

FAX・郵送先

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3-6-1 もくせい会館2階 静岡県立大学グローバル地域センター

FAX: 054-245-5603

●TEL: 054-245-5600 ●<https://www.global-center.jp>
●E-mail: glc@u-shizuoka-ken.ac.jp

フリガナ 氏 名		会 社 団 体 名	
御 住 所	〒		
電 話		F A X	
Eメール			

ご記入いただきました個人情報は静岡県立大学が開催する講演会等の御案内のみ使用します。